

廈門大學圖書館珍藏
主編：季嘯風、沈友益

中華民國史史料外編

日文史料
第十九冊

——前日本末次研究所情報資料

廣西師範大學出版社

時局急轉に奮起した

長春市民大會

各辯士増兵の緊急を力説し
満場拍手裡に決議文を可決

滿洲及北支那に増
兵を斷行し軍事行
動の徹底を望む

張海鵬軍

兵力配備

張海國軍舟在の配備は次の如く
ある
DEC-9-1941

坂本三郎、箱田琢磨、藤田藤助等以上の諸氏演説に立つて交々現下の狀勢は北支那及滿洲に増兵の要あるを力説して聽衆の熱血を湧立たせたる後講場一致を以て決議文を作製し若槻首相以下各大臣、參謀總長、貴衆兩院、各政黨等に宛て右決議文を打電した

決議文

錦州及天津方面の
現状に鑑み、至急

題目とする百五十、安城地方に注
 紅を題目とする二百五十等があ
 『四半折電話』

混亂の波に乗つて

北方新政府を樹立か

DEC-1 1931

東京

潜行的策動中の馮韓孫氏等要人
閻氏は一流の不即不離

其後各方面の暗闘を繰合した結果に據れば韓復榘、馮玉祥、孫殿英、孫傳芳氏等は今回の時局混沌の機に乗じて

潜行的に新政樹立

を密爾であるが、此一派は張
學良氏の失脚は遠からず實現
するものとして側面から是が
促進運動をなすと共に新政權
獲得の爲めに在野某要人を擁
立して兩方派とも分離せる新
北方政府の樹立を期してゐる
節して右に綱し

態度で對してゐるといふ狀勢
である、從て右馮韓氏等の運
動が今後如何なる進展を見せ
るか傳へられる所の蔣介石氏
の北と如何なる關係を生み
變化を來すかといふことは深
く各方面の視聽を集めてゐる

末次研究所

目 要

英米領事調査の

各地日貨排斥

DEC-1 1931 東京 深刻なり政府に報告
當地外商漸く弱る

外人方面の消息に據れば、過般來アメリカ政府は在支各領事をして上海大津初め支那各地に於ける排日状況の報告を蒐集しつゝあつたが何れも日貨排斥激化し日本の

對支貿易 及び支那人

地における日本人の商業に關する支障を與へつつある旨を摘つて述べてゐる、向イギリス及びその屬領各地に駐在する領事よりの報告は印度を始

衝突事變

以來各自の對支態度が全く杜絶えて來た爲め孰れも大いに狼狽し、夫々各自國領事に對して日本側を對して、速かに事變の解決を圖るやうに泣付きの請願して居る模様である

敗殘の兵三千名！

馬占山軍反攻

DEC-1 1931 東京

我軍早くも戰鬪準備を整へて

北滿再び戰雲低迷

齊々哈爾濱三十日、隨處なる退に據じて進出を企てたもの甚だ險惡なるものありとされれば敗退の馬占山は逃じして匪賊化しつゝある

兵三千を

率ひて再び

張學良氏

がら再舉

齊々哈爾濱同の激戦を受け、錦州に集結中の齊々哈爾濱に一脈の連絡あり相違無難い進軍を行ひ來るものと觀られてゐるが、我軍では右に對し權益擁護の自衛的立場から斷然たる態度を以て臨むことにならぬものかく、斯くて

北滿地方

は再び戰雲

分が漲つて來た、右馬占山軍は我軍の鐵道附屬地内への徹進厚に低迷し來らんとし形勢

馬占山軍の反攻で

チ、ハル方面の緊張

徐寶珍軍三千名が動き出し

DEC-2 1931

京津 我○○旅團遂に出動

奉天三十日(聯合) 關東軍官局はチハル派兵に關し本日左の如く語つた、黑龍江省チ、ハル方面に於ける我軍は僅に僅少なる一部隊を残しその他を撤退した所馬占山の部下徐寶珍の指揮する

約三千の軍は張學良及び錦州政府政權と氣脈を結び我チ、ハル部隊を攻撃すべく前進し而方面は著しく危険に瀕するに至つた、茲に於いて十二月一日新銳の一部隊をチ、ハル方面に派遣し前記殘留部隊と交代せしむることとなつた

奉天三十日(聯合) 馬占山部下徐寶珍軍約三千名は泰安を發し列車でチハル方面に進出したので

邦人商店に

亂暴狼藉す

黑龍江軍が

チ、ハル部隊を

重に攻撃

滿州里三十日(聯合) チ、ハルより撤退の黑龍江軍部三百は三十日朝當地へ來たが邦人商店に入り亂暴狼藉を働きたるに付き我領事は嚴重抗議した

形勢險惡の爲め

鈴木旅團出動

關東軍の方針と

DEC-2 1931

京津

馬占山軍反攻の計畫内容

奉天一日(電通) 北滿方面の形勢が再び惡化したので關東軍では鈴木少將以下の○○名を西滿鐵に依つてチ、ハルに急派した、これより發き鈴木旅團長は昨日午後十時本庄司令官以下主腦部と重疊協同したが右につき關東軍當局緒

チ、ハル

形勢險惡化

馬軍はチ、ハルを奪回計畫

今回行動を開始した支那軍三千は齊々哈爾濱を發還すべく二十八日午後根柢地を出發し反撃すべく前進し來るものゝ形勢が危險なもので特に再び不安となつた

末次研究所

政權は引渡さぬと

馬占山ガン張る

DEC-2 1931

京津

張景惠と維持委員會の要求に
張海鵬抱込の運動中

哈爾濱、三十日發、特別區長官、張景惠は張龍江政權引渡委員、長委顧以下五名の委員をチ、ハルに派遣して

維持委員

食と打合せ

張學良の進める

對日作戰計畫

馬占山を援けて

チチハル方面愈險惡化

軍用列車が錦州から

警備隊がチ、ハルに

奉天、二日發(電通)チチハル

軍用列車が錦州から

息して居り同時に満洲子皮打虎山には大部隊が待機中である何時何時の行動に移るか計り難き状態を呈してゐる

哈爾濱一日發(特電)チ、ハル方面に於ける我軍が僅少なる一部隊を止めて殆んど全軍が滿洲沿線の原駐地に撤退したるを見て

馬占山は又復反抗的態度を呈の既に大部隊の兵をチ、ハルを距る五十支里の地點に集結し我駐屯部隊と對峙の状態である一方馬占山の命令を受けたる徐海珍軍三千の兵は昨三十日よりチ、ハルに向け積極的行動を

開始したとの報道があり是が爲め我軍は特に砲隊、砲隊へ交代せしめらるべく新鋭部隊を急派する説があつた

馬軍、チ、ハル奪還を企て

我軍も直ちに急行

DEC -2 1931

北京

徐寶珍軍三千は已に泰安を出發し

北滿の風雲復たも低迷か

(奉天三十日發聯合)馬占山の部下徐寶珍軍約三千名は泰安を發し列車でチ、ハル方面に進出したので同方面は極度に緊張し、奉天に在った我○○旅團○○部隊及野砲○○個大隊はチ、ハルに向け急行した。同旅團司令部も出發し十二月二日明チ、ハル着の筈。

(奉天一日電通)馬占山の別動隊約三千名が齊々哈爾奪還を企圖し二十八日午後根據地を發し行動を起したと判明したので齊々哈爾方面又々不安に陥つた。之がため關東軍では鈴木少將麾下の一隊を西洮線により齊々哈爾方面に本日急派した

黒龍軍今次の行動は

錦州政府と氣脈を通ずもの

【奉天一日電通】鈴木旅團長は昨日午後十時木庄司令官以下首領部に重要協議を重ねたが馬占山の行動開始につき關東軍當局語る。

今回行動を起した支那軍は錦州政府と張學良とに氣脈を通じ、我が齊々哈爾部隊を反撃すべく前進し來る危険切迫したので新鋭隊を派遣し現地部隊と交代せしむる事になつたのである。

DEC -9 1931
モスクワ政府の
御機嫌取に腐心

御機嫌は錦州の一策として又も親政軍に腐心し死中に活路を見出さんとしてゐる、即ち徐良ロシヤと馬占山の連繫を確しむることに、黒龍江沿の軍団をもくろんでゐるが彼は昨年露支紛争以來

蔣駐日公使から

直接交涉進言

DEC 10 1957

滿日

南京當局の同意疑問

「上海八日電」歐戰するところによれば駐日公使が昨午外交部に電報を寄せ日本の駐欧公使と密接に説明し一日も早く反日行爲を停止し直接交渉を進めることが得策なりと激重に懇請した、低シ然レモ該不足の窮状益々露清關係氏が直にこれを會れて曉き得る勢ありや否やは未だ全く不明である。

未だ見ぬ理想郷へ

滿洲獨立國、建設聲明

遼寧自治指導部長于冲漢氏が

京
津

興亞の大旗を押立て、

奉天九日發(電通)自治指導部委員設立以來遼寧各縣自治の指導に邁進せる指導部長子の沖侯は昨日滿洲の獨立建國に關して左の通り重要聲明を發した

里郷を創建すべく努力して居る、即ち蘭亞の大義として人間的偏見を是正し、中外に怪む世界正義の確立を期し既に三千萬民衆の吸血鬼は倒れたから更に進んで別勸隊を無くし是時の残

爲を排除し惡税の廢止、商業交通の暢達を劃し宗教々々を盛興するなど公明正大の精神を以てし、指導等は前途の雄略に向つて大理想の實行者とし無我の應援を待す

馬との會見に
邦人一行出發

海倫七日發聯
馬占山

會見の爲め七日朝哈爾濱を出發した駒井顧問、金谷二等主計總領事館、警察署員大朝大毎及び聯合社特派員等の一行十九名は明夜來降り、さる粉雪を衝いて呼海鐵路で本日午後五時無事海關に到着し、直ちに馬占山と會見した。

我軍使海倫に乗込み

馬占山と重要問題討議

DEC 10 1931

著

三時間に亘る劇的會見を終り
圓満に妥協の成立を見た模様

(海倫八日發)馬占山と胸襟を開き協議黑龍江省問題を平和裡に解決のため身に寸鐵も帶びず本陣地海倫を訪問の我軍使、板垣關東軍參謀、駒井顧問其他々々合せて一行十九名は準備のため豫定を四時間遅れ七日午後八時卅分目的地海倫に到着し、黑龍江軍參謀長謝伽、民政廳長劉庭選等の出迎を受け物凄く戒嚴令下を通過、會見個所廣濟當におちついた、午前零時會見、馬占山は十數名の近衛兵を從へ應接室に現はれた、彼は二見四十五六で身長五尺足らずの、男、黒色の粗末な支那服を身に、齊々吟誦以來の心痛でその面は皺れてゐる、我軍使等と挨拶をな付した後記者の乞ひを心よく容れて語る

日支兩軍は非常な誤解から事端を惹起したがこれは戦争ではない、黑龍江軍は日本との衝突を決して欲してはゐなかつた、大興、三間房方面の衝突は余の命令が部下に徹底せず黑龍江省の不幸を招致するに至つた事はかへすくも残念である、東北四省は日支共存共榮あくまで、平和裡にこれををさめて行かねばならぬ、現在の儘で放任することは出来ない、和平的手段により問題を根本的に解決したい、日本新聞通信社の力により日支兩國民の敵視的感情を和らげ誤解の原因を究明し以て黑龍江省のみならず、滿蒙問題の根本的解決を期したい、張景惠は余の下に使者をくり、來り、平和的解決を希望してゐる余も勿論賛成である、余は日本と敵對することを好まぬ、一兩日來風邪のため遠來の客を出迎へ出来なかつた點は幾重にもお詫びする云々

記者との會見を終へた馬占山は參謀長謝伽を從へ別室に日本軍使と會見膝を交へ胸襟を開き午前零時卅分より愈々黑龍江省解決の大問題を討議した、圓満妥協が物別れか三時間に亘る重要會見は終つた、馬占山は所信を遺憾なく披瀝意志の疏通を見た模様で午前三時劇的會見を終つた、我軍使板垣關東軍參謀は記者に對して語る

日支は飽迄共存共榮！

馬占山我軍使と會見

全滿洲を平和に治めようと協調の態度

DEC 10 1931

東京 事端は總て誤會から

海倫八日發(電合) 馬占山と胸襟を開き各種問題を平和裡に解決すべく身に寸鐵を帯びず馬方本隊前線に於いた我軍使(張景惠)と(翁井蘭)間官、金谷一等主計、總領事館員、大朝人毎時特派員(其他)十九名は七日、八時二十分黑龍江軍參謀長及び民營總長等の出迎へを受け物凄く威厳今下に目見馬所廣信堂に到着した、馬占山は十數名の護衛兵を隨え廳境室に現れたが彼は一四十五、六歳身長五尺足らず黒色の粗末な支那服を着け、ハル戦以來の心驚にからざる面やつれを見せてゐる、彼は先づ我軍前線と接抄を交はした話

滿蒙問題の根本解決希望

日支兩軍は非難な關係から事端を開いたが之れは戰爭ではない三層方面の衝突は部下に余の命令が徹底せず遂に斯かる不幸を招来したものである、東四省は飽迄日支共存共榮の道中相親に示して行かねばならぬ、現在的主には放逐出来ぬ日本新聞通信の力により兩國民の敵視的感情を柔らげ議會の點をお眼し滿蒙問題の根本的解決を希望してゐる、張景惠も余の許に使者を送り平和的解決を希望して居り平和解決は余も賛成であり日本との敵對行為は固より余の好まぬ處である

張景惠は行政

馬占山は軍事

京津 北滿獨立政權確立
兩人近く哈爾濱で會見

DEC 11 1931

哈爾濱十日發(電通) 馬占山と馬占山張景惠間に妥協成は愈張景惠の勸告に依つて使立し張景惠が行政長官に、馬者々派遣して會見を申込んだ、馬占山が軍事長官になる事で馬其結果張景惠と馬占山の聯立による北滿獨立政權が確立する、萬福麟の敗殘兵を討伐すべく兩者の會見は哈爾濱で一昨日やに行はれてあらう

而して是によつて無政府狀態があつた黑龍江省も建設に入る事となつた

奉天十日發(電通) 確證によ

國府委員會が

袁金鎧を免職

13 1931

違反中央の名で

DEC 13 1931 同時に日本の後援を疑ふ

南京、一、日、國民政府は今、討論事項として、戸籍法の公布を決議、工會法第六條修正條文を議決、監察委員袁金鎧氏の免職を決議（袁氏は奉天地方維持委員會の主席として滿洲新政府樹立の中心的人物）國府會議召集の佈告文を議決通過

天津新市長の

軍司令官

總領事訪問

新任代理市長周福光氏は新任換移のため本午後二時半榮勳總領事を總領事館に訪問し更に二時半司令部に香排司令官を夫々回訪したといふ

鄭元冲、蔡元培、朱培德、何應欽等十餘名、于石任氏主席となつて議事に入り
△報告事項として第四次全聯代表大會に於ける議決の各案件を各關係主管機關に分別交付して辦理せしめるの件を報告し

占山は更に我軍と一戦を交へる計畫中との報導もある、支那現代唯一の英雄となつた馬占山は僅か半日で日本軍のため惨々な目に遭ひ對日戦意を失つてその後張景惠を通じて日本側との聯絡を計つてゐたものと思はれるが、對内的面子の問題を如何に處理すのかを苦慮してゐたのである。然し右報再記説も傳はり彼の態度がその後如何に變化したかは豫斷されない。支那人のこ

とであるからその時のもので、どうとも變化するものと見るが至當であらう。

一身を投出した

馬占山の通電

15 1931

滿洲を亡ぼすには

DEC 15 1931 全支を亡ぼす覺悟を要す

哈爾濱、十三日、海倫に停機して皇軍に敵つて抵抗せんとする馬占山は、四方に宛て九日大要次ぎの如き國民の奮ふの通電を發した。前略、日本當局に建言する東三省を亡さんとせば、須らく全中國を亡し得る確信を要する、若し此自信がないとすれば今日の事は、既に吾民族に復讐の念を残さしめるのみであらう、占山の一身の武夫ではあるが、大義の爲には死すとも辭せず、此身存す間は必ずして軍服を穿ぎ、四億の同胞に決心を陳ぶ

張馬の會見で

完全に提携成立

DEC 15 1931

馬の入齊は十四五日頃か

（齊々哈爾濱）十一日馬占山と張景惠との會見は本日午前十五分ハルビン郊外松浦鎮にて會見した此會見は實に十數年振りの歴史的會見で馬と張は此會見に依り完全に提携が成立

した、其結果を全國に通電を發した馬氏のチチハル入城は十四、五日頃になる模様である

DEC 12 1931 學長から北京軍費を得て
馬占山再起か
奉天九日發聯合「ハルビン中國銀行は張學良の許容で哈市保管糧食中から四百萬圓を馬占山に交附した。馬

目 要

DEC 16 1931



満日

奉天省政府主席に 臧式毅氏を推薦

袁氏、地方維持委員會を解散し

新國家建設に助力す

十三日夜十時自由の身となつた前遼寧省政府主席臧式毅氏は十五日午前十一時から總商會において開會の各法團聯合會にて奉天省政府主席に推薦された、右により趙市長はこの奉天省民の民意を齎らし臧式毅氏の蹶起を促した、その結果同氏の承諾を得、同道して省政府に袁金 氏を訪ね兩者會見の結果、袁氏も快く地方維持委員會を解散し新に組織する奉天省政府主席に同氏を迎へ及ばずながら引續き助力して相共に新國家建設の途に進進せんことを誓つた【奉天電 話】

DEC 16 1931

満日

舊軍閥の掃蕩に 日本の援助を期待

政友會内閣の樹立には満足だ

奉天省首脳部の意見

政友會内閣に對する奉天省首脳部の意見は、新政府樹立に對し日本の方針が確立し東北民衆の結束は固く政府の統率確保せられることに満足する意を表し左の如く語る

政權が動搖なく平和裡に授受されることはわが支那の現状から誠に羨しい、日本に信頼する我等は政友會内閣が出来ても日本の滿洲政策に變化があるとは思はない、日本の力に借り東北民衆の平和、國家を建設するのが任務である、腐敗せる舊閣の下に横擱するのは國家を亡し民衆を苦しめるに過ぎない、東北民衆の新生國家を樹立し一時も早く幸福な民衆政治を始めることが緊急の目的である、政友會内閣は必ずや我等の努力に誠意をもて援助するものと期待してゐる、威力のない我等は平和境を克つ舊軍閥の爪牙を一掃するに日本の力を必要とする、そして果敢一致の美しい日本を模範とし新平和境を造りたい【奉天電 話】

末次研究所

滿蒙の首腦として

新國家建設の立役者

監視解けた前遼寧省主席臧氏

DEC 16 1931

京 津

手腕の程を期待されて

奉天十四日發(聯合) 前遼寧省の手腕は大に期待されて居る
省主席臧式毅は地方の治安が
全く鎮まつたので近く奉天省
主席に復活して東三省の

新首腦部 をリードし

て、滿蒙新國家建設の立役者
の一人となるべく既に積極的
活動を始めたが人望學識ある
臧式毅の活動は滿蒙建國運動
に異常な活氣を與へてゐる
奉天十四日發(特電) 滿洲事
變の勃發以來我軍の爲も監視
を受けて居た臧式毅氏は昨十
三日夜

臧氏の略歴

臧氏は今年四十六歳の湖北
陽新縣人、日本陸軍士官學校
第九期步兵科卒業、陸軍少佐

保定講武學堂教習北洋軍
長に歴任し民國九年二月黑
龍江督軍署參謀に任ぜられ
最近張學良氏の麾下に遼寧
省政府主席となり以て今日
に及んでゐる人である

南京政府が排日を

公然指導せる事實

我代表部、聯盟に通告

DEC 16 1931

滿 日

「ジュネーヴ十四日發」國際聯盟
日本代表部は安部政府が公然と國
民の排日官能に參加してゐるこ
を次の如き事柄を舉げ理事會に通
告した
一、南京政府教育部は支部に對す
る日本の侵略及帝國主義の歴史

を生徒に教育するやう訓令を發
した
二、南京政府は國民黨に對
し排日諸團體の組織
を指導するやう訓令を發し
た
三、國民黨に對し日本の商館に壓

はれてゐる支那人を取調べ日米
間に協議があればこれを採知す
るやう訓令した
四、排日協會に對し沒收した
日貨を競賣に附し屋
占山軍に資金を供給
するやう訓令を發した

末才研究所

東支鐵道管理局より

南部線買收方滿鐵へ惣憑

滿鐵本社に對し特使を派遣す

DEC 13 1931

新·支

滿鐵側ても大乘氣

(奉天十六日發聯合)
東支鐵道管理局は今般滿鐵本社に特使を
派^れ滿鐵の東支鐵道南部線買收方を慫慂し來つた之
れに對^じ滿鐵側は大乗氣で十六日午前十時半内田總
裁は右に關し本庄軍司令官と會見し重要協議をなし
た

交替部隊の出發に

來る十九廿日

きのふ御裁可を仰ぐ

【東京十七日發】金谷等謀逆校長は午後二時着軍中に管内内地師團より左部方面に押れ及び縣警隊諸師團の件につき急上御殿呼申仰々直に聞ける

在滿部隊は困憊

【東京十七日發】十七日の閣議に於いて、元水嶺^{ハミ}より現在の滿洲全兵力は該地方治安維持のための最少限度にして事變多數以來三月の久しにして且り極多重要任務遂行に當つた爲め疲勞困憊の狀況に在り而して右兵力中朝鮮より派遣せる混成旅團は朝鮮防衛上速かに歸還せしむる要あるを以てその際内地部隊も略同等の兵力並に若干特殊部隊を派遣しその到着後現地狀況を見ても朝鮮旅團を原駐地に歸還せしむることとせり。向は天津方面に對しては師團増發と共に取敢ず滿洲に在りし朝鮮部隊の一部のみを遣せるも右は急急の措置なりしを以て朝鮮旅團原駐地歸還せしむる要あり。

遠の當然の歸結として右部隊と
 交代の爲め内地より一部隊を急
 派することとした
 この提議を爲し高橋蔵相より右財
 源に就き説明した結果閣議はこれ
 を承認した

滿洲天津軍隊
派遣費

【東京十七日電】滿洲派遣に要する経費は十七日の閣議で左の如く決定した

滿洲派遣費	百七十萬圓
天津派遣費	四十萬圓
合計金	二百十萬圓

(第二期資金より支出)